

# 健全な社会は、 誰かの努力によって つくられます。

## 平成20年度 第5回 ヘルシー・ソサエティ賞

より健やかな社会づくりと国民のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献した方々を顕彰する目的で、平成16年に創設された「ヘルシー・ソサエティ賞」。

今年も全国から寄せられた推薦候補者のなかから、審査委員会による厳正な審査によって5部門中4部門6名の受賞者が決定しました。

それぞれ、教育、ボランティア、医療、公務員の分野で指導的役割を果たしている方々です。

この賞をきっかけに、国民の健康、地域社会の福祉、さらに生活の質の向上のための有意義な活動が、より広く普及することを私たちは心から願っています。

### 平成20年度 第5回ヘルシー・ソサエティ賞 受賞者

#### 教育者部門



しんざと つねひこ  
**新里 恒彦** ケルン(Carin)自然体験学園 理事長

教員を退職後、1993年に「ケルン(Carin)自然体験学園」を恩納村に創設。学校で居場所を失った子どもたちのために、自然体験を通じてたくましく生きる力を育てることが目的の施設である。その後、入園希望者が増加したために大宜味村に拠点を移転、特定非営利活動法人格(NPO)認証を取得し、活動を続けている。新里氏の取り組みは、同じ教育者たちからの共感を得て、教育委員会の視察、指導者の研修訪問なども行われている。

推薦者 稲葉 耶李 那覇簡易裁判所 判事

#### 医療従事者部門(国内)



たけだ たかお  
**武田 隆男** 武田病院グループ 会長

1996年より武田病院グループ 会長に就任。「365日24時間を通して、ある程度の検査や処置ができ、それでいて患者さんのところへも気軽に往診もする」といった病院を作りたいという理想から、先進医療も積極的に取り入れ、計60施設のグループで地域に貢献している。また、日本病院会の理事に就任してからは、感染症委員会創設の必要性を訴え、全会員に院内感染に関する実態調査・研修を実施するなど多くの業績を残している。

推薦者 山本 修三 社団法人 日本病院会 会長

#### 第5回審査委員

有馬 朗人 (財)日本科学技術振興財団 会長、武蔵学園長、元文部大臣、元理化学研究所 理事長、元東京大学 総長

日野原 重明 聖路加国際病院 理事長・名誉院長

岩男 壽美子 慶應義塾大学 名誉教授、武蔵工業大学 名誉教授

福田 博 元最高裁判事

佐藤 ギン子 (財)女性労働協会 名誉会長、元駐ケニア大使、元証券取引等監視委員会 委員長

古川 貞二郎 恩賜財団母子愛育会 理事長、元内閣官房副長官、元厚生事務次官

高久 史麿 自治医科大学 学長、日本医学会 会長

細川 佳代子 認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本 名誉会長、認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを」日本委員会 理事長 (五十音順・敬称略)

#### ボランティア部門(国内)



さがわ おさむ  
**佐川 修** 国立療養所多磨全生園入所者自治会 会長

1945年、東京大空襲の火傷の診察で「ハンセン病」の宣告を受ける。以来63年間、社会のハンセン病に対する差別と排除に加え、韓国籍であることから二重三重の差別を生き抜くことになった。自ら「ハンセン病」を生き、偏見・差別をなくすため、歴史を保存し、語り、未来につなぐ活動をしている。1993年から国立ハンセン病資料館の設立に尽力。ハンセン病の歴史を生きる当事者として、語り部活動を行い、今もなお、多くの人々に語り続けている。

推薦者 紀伊國 献三 財団法人笹川記念保健協力財団 理事長

#### 医療従事者部門(国際)



すがなみ しげる  
**菅波 茂** AMDAグループ 代表

大学在学中にアジアを10カ月間放し、海外での医療に関心を抱く。1981年に内科医院を開業し、1984年に国際医療ボランティア団体AMDAグループを設立。これまでに、災害や紛争で医療支援の行き届きにくい50カ国以上の地域で、緊急援助活動と支援対象者の自立をサポート。「多様性の共存」を理想とし、「困った時はお互いさま」という相互扶助精神に基づいて国際人道支援活動を実施。常に活動地の人々の声に耳を傾けながら、協力して活動を行っている。

推薦者 逢沢 一郎 衆議院議員

#### ボランティア部門(国際)



すすやま ひろし  
**勸山 弘** NPO 日本アイバンク運動推進協議会 最高顧問

真宗大谷派「真楽寺」24代住職。1964年に檀家の通夜で法要を終えてまもなく医師が角膜炎を摘出する様子を見たこと、奉仕活動で訪問していた医療施設の患者に角膜炎を侵され失明した人がいたことがきっかけとなり、生涯をかけてアイバンク(献眼)運動に奉仕することを決心。以来44年以上、日本、スリランカ、中国のアイバンク(献眼)運動の推進と啓蒙に務めている。NPO法人「日本アイバンク運動推進協議会」創設者であり、現在は最高顧問を務める。

推薦者 高地 英寿 社会福祉法人読売光と愛の事業団 常務理事

#### 公務員部門



よこた しゅんぺい  
**横田 俊平** 横浜市立大学大学院医学研究科発生小児医療学 教授

小児感染症と小児リウマチ・膠原病分野で活躍。近年になって診断・治療が著しく改善されてきた新しい分野だが、小児領域では認識が進まず、全国から多数の相談を受けている。さらに、専門医のいない地方で、外来診察をサポートし、立ち上げるなど若い小児科医への育成にも力を注いでいる。また、横浜市と協議を行い、市内7拠点の病院に小児科医11名~18名の勤務と24時間365日子どもの病気に対応するシステムを構築・実現した。

推薦者 松本 慶藏 愛野記念病院 名誉院長